執行方針

【要約版】



教育長　中山　秀悦

『「読書と作文のまち」－学び・心・体の健康』を貫く柱とし、学校・家庭・地域（団体）・行政が一体となり、礼儀正しく、賢い、優しい今金の人を育むことを目指します。

■急速に変化する社会を生きる確かで柔軟な力の育成

【確かな学力を育む教育の推進】

タブレットの活用、通信環境の整備。変わる学習環境の中で変わらないこと。それは、学校は授業が命であるということ。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実。タブレットと筆記具、ノートでの「書く活動」を重視。生徒指導の機能が生かされている温かな、子どもに力をつける授業を目指します。授業に向かう姿勢・規律性を重視し、お互いを尊重した言葉遣い等の言語環境等を継続します。

【豊かな心を育む教育の推進】

子どもたちが毎朝、友だちのいる学校に行くことが楽しみで目覚める日々を迎えられるよう、いじめの未然防止等に努めます。日常の挨拶や礼儀正しさを重視し、「人の痛みの分かる教育」を実践。いじめゼロ、SNSノートラブルを合い言葉にしっかり話し合う教育で優しい心を育みます。

【健やかな体を育む教育の推進】

学習や人間関係の構築に向かう意欲の源は体力。体系化された体育授業の推進に努めます。今金町産食材の良さに触れる食育、食農教育など学校給食の充実と食育の推進に努めます。新型コロナ感染症への対応、そしてがん教育を重視し、健康教育アドバイザーを核に連携した家庭とつなぐ健康教育の推進に努めます。地球規模の環境の変化に目を向けた、能動的な環境教育を進めます。

【多様なニーズに対応した取組の充実】

特別支援教育においても、保健福祉課との連携、特別支援教育スーパーバイザーによる子ども支援や、保護者支援等、ウェルビーイングに向けた施策の充実を図ります。特別支援教育支援員・生活学習支援員を配置します。子ども子育てプロジェクトの一環、小学校一年生学級にこども園保育教諭の派遣を継続します。

欠席即家庭訪問、今金町地域自立支援協議会との連携など、子どもたちや家庭を支える連携を深め、温かな関係性を構築。不登校ゼロを合い言葉に不登校・登校しぶりへの対応を進めます。

【幼児教育・子育て支援の充実】

令和5年度より学童保育所の運営を社会福祉法人さゆりへ移管します。発達支援センターについては、令和6年度移管へ向けて準備を進めています。今金町・今金町教育委員会「育ちの支援から就労支援」体制に基づいた0歳から18歳までの支援を基本としたオーダーメイドの支援を高等教育機関、相談支援事業所、就労支援団体と連携し行い、家庭を支えます。

■未来へつなぐ今金の教育の推進

【協働性を重視した社会教育の推進】

「学社融合ファイル」の活用。「わくわくカレッジ・イマカレ」を充実させ、体験プログラムを通して人材育成と教育機能の調和、学校教育と社会教育の連携・融合を図ります。進む教育のICT化の中で、情報活用能力を向上する基盤、全ての学習の基盤、人間関係構築の基盤として言語能力の育成はたいへん重要です。確かな読解力、語彙量の蓄積。読書（input）と作文（output）のまちプロジェクトの推進を強化します。4年目を迎える『今金エッセイ（作文）コンテスト』を充実させ、秋の「今金っ子わくわくフェスティバル」を発表の場と押さえ一年をかけて学校や町民と創作活動を進めます。

【図書関係ボランティア等と連携・協働した広がりのある図書活動】

図書ボランティアや他機関との連携。町民センター図書室の環境づくり、地域に出向いての図書貸し出しサービスやまちかど文庫の設置等、町民と本・情報の結びつけ。司書・司書教諭等が連携した町民センター図書室の積極的活用、学校図書のデータベース化、蔵書管理システムの運用等、学校図書館運営支援。中学生を対象に一人一台端末を利用した電子図書の導入に係る所用の予算を計上。

【豊かな国際感覚を育む教育活動】

国際交流アドバイザーによる英会話料理教室の実施など、幼児から大人・シニア層まで町民が外国語に楽しく親しみやすい機会の提供、ニュージーランド・バーンサイド高校との交流等、国際理解教育・外国語教育の充実を図ります。

【共に進める家庭教育】

「親学講座」の一層の充実や親子向け事業を推進します。「家読のすすめ」を推進し、家庭での語らいや親子のコミュニケーションを深めるとともに、「わが家のやくそく」を発行し、規則正しい生活習慣の啓発を図り

令和5年度 教育行政

今金っ子を育みます。

【人づくりの推進】

進む少子高齢化、過疎化の中で地域のリーダーは宝。生涯学習を観点とした多様な学びの機会を提供する成人教育を推進します。「ドリームバスツアー」や子ども会主催事業等の体験活動を通じ、人間力向上と地域への愛着を高める取組を進めます。社会教育団体育成事業等、行政が積極的に関わり地域住民同士のつながりを深めるなど、居場所づくりや地域の活性化を図ります。

ふるさとキャリア教育を各学校と連携する中で系統的に進め、「今金町文化財保存活用地域計画」と連動も図ります。

大学等との連携。高等教育進学支援の基盤として今金町奨学金貸付基金制度を推進します。

■持続的で魅力ある教育環境の充実

【家庭・地域との連携・協働の推進】

警察署等と連携し「ながら見守り」等、子どもたちの生活・教育環境の安全・安心を図ります。学校経営の意思決定や人的資源の支えとしてのコミュニティ・スクールの推進に努めます。学校部活動の地域移行について、令和5年度は検討協議会の設置及び生徒保護者のニーズ調査等を予定しており、令和7年度末を目途に地域移行へ向けた取組を進めます。

【将来につながる幼保・小・中の一貫した教育】

合同授業やオンラインでの授業など教育課程連携や小中での授業連携、協働、幼保との共有を進めます。檜山の教育・今金町の財産である学習スタンダードの継続。また必要に応じて檜山北高等学校、今金高等養護学校との連携もします。

【学校における指導体制の充実】

ゆとりをもった業務の中で、元気に仕事の精度を高めていくという効率化を図るため、様々な研修の機会を通じて教職員の力量を高めます。町独自の教職員資質向上研修制度を活用し、地域とのふれあいの場と時間を保障するとともに資質・能力の向上に努めます。

【今金中学校改築事業】

令和3年度に建設工事が始まった新校舎は、令和5年4月供用開始で教育活動が進められます。令和5年度は旧校舎の解体工事、正面玄関前など一部の外構工事を行うため、所用の予算を計上しております。グラウンドは令和7年4月の供用開始の予定で工事を進めます。

【今金町学校給食センター改築事業】

ドライシステムやアレルギー対応調理室等、高度な衛生管理体制の整備が求められている今金町学校給食センターの改築事業について、令和5年度は実施設計業務及び地質調査業務を行うため所用の予算を計上しており、令和8年度供用開始へ向け進めます。

■感性豊かで広い心を育む文化・芸術の振興

【文化・芸術活動の推進】

文化協会への運営支援、生涯を通じた芸術文化活動の推進に努めます。「今金ミュージックサマースクール」は貴重な学びと鑑賞の機会として効果的な運営を図ります。隔年開催となる幼児・小学生・中学生に提供する「幼少年芸術劇場」は、芸術鑑賞の機会として、町民にも案内して開催します。

【文化財保護の振興】

文化庁認定となった文化財保存活用地域計画【今金町文化財保存活用地域計画】。【北海道遺産】に選定された今金・美利河の金山遺跡等、文化財の保護・振興を進めます。文化財が幅広い年代層に認知される機会を設けるとともに、学校での「ふるさと学習プログラム」の導入、観光施設や他市町村の文化財施設との連携を図ります。「郷土に誇りを持てる人材を育成するまちづくり」を目指し、地域計画に基づき、重要遺跡把握調査や町指定史跡測量調査、整理調査報告書の作成等を進めます。

■健やかな心身を育む生涯スポーツの振興

令和5年度は今金町スポーツ推進計画の最終年度となることから、これまでの評価と第2次今金町スポーツ推進計画策定を進めます。

【スポーツ活動の推進】

今金町スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブいまかねと連携したスポーツ教室）に努めます。大会及び合宿誘致、軽スポーツの普及活動や外部人材を活用した研修会など、学びの機会の提供や少年団活動の支援を通じた活動を推進します。

【生涯スポーツの振興】

進む高齢化社会に備え、地域人材の活用や外部とも連携し「ニ・フィット」等のスポーツ教室の開催等、保健福祉課と連携を図りながら、個人のライフステージに応じた運動プログラムの提供を目指します。総合体育館のトレーニング機器の活用、地域支援の一環としてシニア層への生涯スポーツの意識啓発を行うなど、町民の健康を支える活動を推進します。

【スポーツ環境の充実】

町民体育祭やピリカふれあいマラソン、歩くスキー等、各種団体との連携による多様な参加機会を提供します。学校開放事業、外部のアスリート等と連携したスポーツ体験会など、学校とも連携した様々なニーズに対応する【体験プログラムの提供】に努め、健やかな心身を育む取組を進め、町民の元気に繋げます。